

(注) 本報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

ベナン月報(2021年8月)

【内政】

- 1日、第61回ベナン独立記念日祝賀式典が開催され、タロン大統領は国民に向けてこれまでの取り組みと今後の方針についてメッセージを発出した。(2日、La Nation 紙)
- 野党の代表で新興ベナン(FCBE)党のポール・ウンペ党首は、近い将来、野党勢力を終結させるべく協議の枠組みを作ることを公表した。(23日、L'Événement Précis 紙)

【治安・保健】

- アラサン・セイドゥ内務・治安大臣は、ブルキナファソのテロリズム被害者でベナン北部ポルガ市に難民として流入してきた人々の安全を確保する旨公表した。(9日、La Nation 紙)
- 25日、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、政府は文化・祝祭的イベントを中止するよう通達を出した。(26日、La Nation 紙)

【経済】

- 5日、ベナン、トーゴ、コートジボワール、ガーナ、ブルキナファソに関連する日本による無償資金協力「新型コロナウイルス感染症を含む公衆衛生危機に対応するための国境管理能力向上計画(IOM 連携)」の交換公文署名式がアビジャンにおいて実施された。(16日、L'Économiste 紙)
- IMFにより発表された、債務とGDPに関する報告書によれば、ベナンの債務は対GDP比48%で、モデレートに位置付けられた。(27日、L'Économiste 紙)
- 27日、近藤茂臨時代理大使は、経済社会開発計画(医療機材供与)により調達された救急車等の引渡式に出席した。(30日、L'Économiste 紙)

※下記内容は、La Nation 紙、Le Matinal 紙、L'Événement Précis 紙、L'Économiste 紙および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- 1日、第61回ベナン独立記念日祝賀式典が開催され、タロン大統領は国民に向けてこれまでの取り組みと今後の方針についてメッセージを発出した。(2日、La Nation 紙)
- 5日、拘留中のアイボ被告(憲法学者、大統領選挙に出馬)の公判が開かれ、保釈請求が棄却された。(11日、Le Matin Libre 紙)
- 8月上旬から共和国警察は、街の美化及び治安強化を目的に、ベナン全土において公共空間の不法占拠者らの取り締まりを開始した。12日、ダントツパ市場の不法占拠者らの強制立ち退き処分が行われた。(13日、Le Matinal 紙)

- ・ 野党の代表で新興ベナン(FCBE)党のポール・ウンペ党首は、近い将来、野党勢力を終結させるべく協議の枠組みを作ることを公表した。(23日、L'Événement Précis 紙)

【外政】

- ・ 2日、ベナン滞在中のオバサンジョ元ナイジェリア大統領は、タロン大統領と会談した。(5日、L'Événement Précis 紙)
- ・ 26日、L'Économiste 紙は、万国郵便連合(UPU)事務局長選挙で日本の候補者目時正彦氏が選出されたことを報じている。(26日、L'Économiste 紙)
- ・ 27日、タラタ副大統領、アベノンシ外務・協力大臣、ワダニ経済・財務大臣は、ドイツ主催の「G20アフリカとのコンパクトセミナー」にオンライン出席し、コロナ後のベナン経済の立て直し方策について語った。(30日、La Nation 紙)
- ・ 新任のデルス駐ベナン・ドイツ大使は、新聞社のインタビューを受け、科学技術と職業訓練を中心に協力を進めていくことを語った。(31日、La Nation 紙)

【治安・保健】

- ・ 5日、ベナン肝炎撲滅議員ネットワークは、肝炎撲滅に向けた勉強会を開催し、包括的な撲滅活動に取り組んでいくことを宣言した。(6日、La Nation 紙)
- ・ アラサン・セイドウ内務・治安大臣は、ブルキナファソのテロリズム被害者でベナン北部ポルガ市に難民として流入してきた人々の安全を確保する旨公表した。(9日、La Nation 紙)
- ・ 政府は新型コロナウイルスを含む感染症治療に特化した病院をアボメ・カラビ市に開院する旨公表した。(11日、Le Matinal 紙)
- ・ 15日のベナン政府の発表によれば、新型コロナウイルスの累積感染者数が10,183名に達した。うち、死亡119名。(18日、Le Matinal 紙)
- ・ ベナン保健省は、3月29日から始まった新型コロナウイルス・ワクチンキャンペーンの会場をベナン全県計78か所に拡大する旨発表した。(20日、L'Économiste 紙)
- ・ 20日、過去数週間で新型コロナウイルスの感染が急拡大している状況に鑑み、タロン大統領は国民向けにワクチンを打つよう要請する声明を発表した。(23日、La Nation 紙)
- ・ ベナン南部のセメ・ポジ市において、鳥インフルエンザが確認された。数千の家禽が犠牲になっているが、ベナン当局は、状況は制御されていると発表している。(24日、La Nation 紙)
- ・ 25日、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、政府は文化・祝祭的イベントを中止するよう通達を出した。(26日、La Nation 紙)
- ・ 8月下旬、ベナン北部アリポリ県・ボルグ県は大雨に見舞われ、多くの町で洪水が発生した。(27日、Le Matinal 紙)

【経済】

- ・ 5日、ベナン、トーゴ、コートジボワール、ガーナ、ブルキナファソに関連する日本の無償資金協力「新型コロナウイルス感染症を含む公衆衛生危機に対応するための国境管理能力向上計画(IOM 連携) 」の交換公文署名式がアビジャンにおいて実施された。(16日、L'Économiste 紙)
- ・ 8日、女性の金融アクセス問題を解決すべく設立された「ベナン女性投資クラブ」の第1回会合が、計画・開発省の協力の下、開催された。(9日、L'Économiste 紙)
- ・ ベナン政府の定めた「経済・財政複数年計画資料」により、政府は2022年の経済成長率7%を目指していることが公表された(2021年の予想は3.8%)。(20日、L'Économiste 紙)
- ・ 22日、コトヌ港の受入能力の拡張を目的とした停泊地拡張事業計画が策定された。(24日、La Nation 紙)
- ・ ベナン政府は、新型コロナウイルスで打撃を受けた企業に対し、支援のための補助金を交付することを決定した。(27日、La Nation 紙)
- ・ 25日、パリで開催されたアフリカ投資会議にワダニ経済・財務大臣が出席し、ヨーロッパとアフリカの新たな協力ビジョンについて発表した。(27日、L'Économiste 紙)
- ・ 26～27日、投資家向けに第4回ベナン投資フォーラムが開催された。(27日、L'Économiste 紙)
- ・ IMFにより発表された、債務とGDPに関する報告書によれば、ベナンの債務は対GDP比48%で、モデレートに位置付けられた。(27日、L'Économiste 紙)
- ・ 27日、近藤茂臨時代理大使は、経済社会開発計画(医療機材供与)により調達された救急車等の引渡式に出席した。(30日、L'Économiste 紙)

【文化・その他】

- ・ 8日に終了した東京オリンピックにおいて、ベナン選手はメダルを獲得することはできなかった。(11日、La Nation 紙)
- ・ 15日、アトランティック県・リトラル県空手リーグの主催で、空手大会「コトヌ・オープン」(小学校～高校生の部)が開催された。(18日、La Nation 紙)
- ・ 17日、在ベナン中国大使館は、高等教育・科学研究賞との間で孔子学院及びアボメ・カラビ大学社会学・人類学科の校舎建設にかかる合意書の署名を行った。(18日、La Nation 紙)